

2018 年度 学校関係者評価委員会

日時	2018 年 7 月 4 日 (水) 13:30~15:30	場 所	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 大会議室 (1 号館 8 階)	進 行	原田
	議 事		槍崎		
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・原田 正隆 (千葉市民活動支援センター センター長) ・船曳 勇一 (京成ホテルミラマーレ 取締役/総支配人) ・山口 晋司 (千葉都市モノレール株式会社 総務部総合調整担当部長) ・小亀 さおり (千葉市経済農政局経済部観光プロモーション課) 				
	<p><学校職員> *オブザーバー参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢口 博士 (校長/本部長) ・瀧 潤一郎 (国際事業本部長) ・足澤 永子 (教務室長/副本部長) ・小園 達郎 (就職室リーダー) ・槍崎 さやか (学務室リーダー) 				
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2017 年度重点方針の確認、及び活動報告 2. 2017 年度自己評価 				
議事録	<p>【配布資料】 2017 年度自己点検評価表、入学案内書・募集要項、キャンパスライフマニュアル、5 校実績結果一覧、千葉県専門学校ガイド、専門学校協会会報 (職実)、検定試験結果一覧</p> <p>進行原田氏が委員会を開会した。 学校より職業実践専門課程の平成 29 年 (2017 年) の認定状況、及び全国の認定状況を説明。 当校の認定状況についても併せて報告。</p> <p>1. 2017 年度重点方針の確認、及び活動報告 学校より以下の重点方針について、5 校実績結果一覧の数値目標・実績とともに説明を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 安定した学生数の確保：経営的な観点及び授業活性のためにも不可欠 (2) 企業と連携した教育課程編成と学修成果の向上：在校生だけでなく、卒業生も含めた学修成果 (3) 学生満足度の向上：入学して良かったと思ってもらえるように努力する (4) 学生の希望に合わせた進路決定率の向上：学生ニーズを捉えた就職先の斡旋 (5) 退学者の低減：今後も最小限に抑えていく (6) チームワークのとれた組織の円滑な運営：一体感のある組織 <p>職場改善アンケートでポイント下げた点については、働き方改革の流れも意識しながら改善に向けて取り組みを行う。</p> <p>2. 2017 年度自己評価 学 校：今年度より自己評価について新たな取り組みを行った。 まず、基本方針を定め、評価根拠に基づく評価を行い、自己評価から見えてくる課題・改善点について、取り組みを行うこと。また、本日頂戴する客観的な学校運営に関するご意見に関しても、計画的に取り入れ、改善を図っていく。 つぎに実施方法については、プロジェクトを発足し、メンバーによる自己評価を実施。 評価項目について、ガイドラインを基本とし、観光分野の第三者評価システム構築の事業活動報告書を参考として、観光分野の評価項目を追加し、11 項目から 13 項目へ変更した。従来項目の内容についても精査を行った。 評定についても、達成度を測る四段階へと変更 (従来は適正～不適正の四段階)。実際の評価の際には、100 点満点で評価を行っている。前年評価と今年度評価を並べることで比較できるようなフォームに変更している。各項目の構成は評価とエビデンス、現状、課題、改善方策、特記事項となっている。 自己評価・学校関係者評価・学校関係者評価委員会議事録については今後 HP で公表する。 原田氏：各項目評価が悪かった点、学校として特筆すべき点の説明を行った後、各委員より質問・意見といった形式で進めていく。</p>				

(1) 教育理念・目標について

2：教育目標、育成人材像は、専門分野に関連する業界等の人材ニーズに向けて方向づけられているか。
→年2回の教育課程編成委員会による教育課程の見直しと改善、年1回の学校関係者評価委員会による学校運営の改善等が定着してきた。【評価3→4】

5：社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。

→単年目標だけでなく、中長期構想をもつことの重要性を認識しており、国の施策や業界ニーズ等情報を収集する中で、中長期に向けた将来構想の検討の場を設け、教職員で共有したい。【評価3→3】

学校関係者からの質問・意見

特になし

(2) 学校運営について

6：業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。

→講師心得や就業規則によって規定されている。今後より一層の体制整備が必要である。【評価3→3】

8：情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

→システム導入はしているが、機能面で現状に見合っていない（特に学生管理システム）。

システム改善・導入が必要な事項の把握・洗い出しを行い、導入検証・提案計画を立て、予算面、学園との調整を行う。【評価2→2】

→学生連絡に使用しているシステム（アプリ）について画面を使用して説明を行った。

学校関係者からの質問・意見

6：コンプライアンス

船曳氏：学内向けのコンプライアンス体制についての評価なのか。

大手ホテルにおいても顧客情報流失の問題がニュースとなっている。システムでもネットワークを利用するものに関してどうやって個人情報を守り管理していくのか問題である。

学 校：当校の学生システムはネットワークには繋がっていないが、個人情報の管理は非常に重要なため、今後も対策を検討していきたい。

原田氏：もし、そういった情報流失等が起こった場合、事後対応が非常に重要となってくる。

学園として検討していくことが望ましい。

8：情報システム

山口氏：システム改善については、到達目標があるが、そこに至らないため2という評価なのか。

学 校：特に学生システムについては、改善・充実させたいという意見が多くある。

（セキュリティ対策について再考させられる事案があった）例えば、カード方式で個人認証し、セキュリティ対策、出欠管理を兼ねることもできる。当校にあった方法の模索を行いたい。

船曳氏：学生連絡システムの受信方法はアプリのみなのか。（スマートフォンしか対応しないのか。）

学 校：メールでも受信可。配信情報を紙面で渡す対応も行っている。

(3) 教育活動について

4：キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

→教育環境の変化は著しく、教育方法の工夫・開発という点で、ICT教育の現況を調べ、より分かりやすく教育効果のある授業へ漸進的に取り組んでいきたい。【評価3→3】

6：関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか。

→ホテル科・ブライダル科・テーマパーク科では教育課程内に1年次必修として取り入れているが、全学科実施には至っていない。引き続き、実習先確保、企業開拓を進めていきたい。【評価3→3】

13：関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか。

14：職員の能力開発のための研修等が行われているか。

→研修計画に基づき実施しているが、内容等が十分とは言えない。研修による到達目標を予め定め、実践的かつ社会ニーズを捉えた研修に参加していきたい。また、昨年度ご意見を頂戴した非常勤講師への研修についても、実施には至っていない。【13：評価3→2、14：評価：3→3】

学校関係者からの質問・意見

特になし

(4) 学修成果について

3：卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。

4：卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。

→2015年よりご意見いただいている卒業生把握については、必要性を認識しているが、実動できていない。

学校として職安に対して卒業後6ヶ月以内の離職者数を報告する努力義務があるため、把握方法やツールの模索を早急に進める必要がある。【3：評価3→3、4：評価：2→2】

学校関係者からの質問・意見

3・4：卒業生・在校生の社会的評価

船曳氏：学生連絡システムを学校・卒業生の相互ツールとして使えないのか。

縦のつながりを構築できると非常に有益である。

山口氏：教育課程編成委員会に出席して感じるのだが、業界で働く卒業生が委員として参加するなど体制があるので、評価はもう少し高くても良いように思う。

学校側が予め日程を立て、年一回集まるなどするのはどうか。

学 校：過去にOB・OG会を予定し卒業生宛に案内を送付したが、1%程度の回答率だった。

姉妹校では試みとして、手始めに直近の卒業生（2018年3月卒）を集めることを計画している。

小亀氏：留学生が増加している現状を考えると、お国柄によって異なるネットソサエティを利用している。

それぞれに対応した情報発信の仕組み作りができると良い。

(5) 学生支援について

6：学生の健康管理を担う組織体制はあるか。

→昨年評価が実状よりも高い評価となっていたため、今回は現況に合わせて一つ評価を落とした。

メンタルヘルスについてはスクールカウンセラーを配置、学校提携の医療機関がある。ただし、組織体制として保健室等の設備・人員配置は難しいため、まず近隣病院一覧の掲示、急病等に対応するため、教職員が初期対応やAEDの利用方法等を受講、担当やマニュアル整備を進める。【評価3→2】

10：社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。

→社会人の受入は行っているが、学びなおしや社会人に特化した教育課程等は定めていない。【評価2→2】

学校関係者からの質問・意見

特になし

(6) 教育環境について

1：施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

2：学校設備・備品等が定期的に管理・点検されているか。

→設置基準の遵守、教育環境として適切なものとしているが、学科コースが多いこと、学生数の増加により時間割の教室割り当てに苦慮しており、昨年度より一つポイントを下げた。またPC環境については2019年に学生PCの入替が決まっているが、併せて通信環境の改善も必要である。老朽化が進んでいる建物があり、一部不具合に対して、対処していく必要がある。【1：評価4→3、2：評価 昨年項目なし→3】

5：学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。

→複数の建物に分かれており、不審者等に対して構造上脆弱な部分がある。不審者に対応するために、防犯カメラの増設や、土日の学校説明会実施の際は警備員を配置する等対応している。しかしながら、更なる危機管理の啓蒙が必要であり、まず自己管理を徹底すること、またマニュアルに則り実動できる体制を整えることが必要である。（学園の「緊急初動マニュアル」の説明。）【評価 昨年項目なし→2】

学校関係者からの質問・意見

5：防災・安全管理

船曳氏：留学生の数が増えているとお話だったが、マニュアルや指示に英文はあるのか。

学 校：日本語科は別として、観光総合科（留学生）については日本語をよく理解しているため、英文は用意していない。

山口氏：マニュアルは非常によくできていると思う。安全管理は非常に大切であり、当社では事前に内容を知らせないブラインド訓練を行い、緊急時の想定問答をする。

学 校：年一回行う避難訓練は学生・講師・教職員すべてを対象に学園全体で行っているが、今回お話を聞いて教職員だけの訓練を実施検討したい。また、災害についての意識は残念ながら時が経つと薄れてしまうため、定期的にビデオを見せるなど視覚に訴え、啓蒙する機会を取り入れたい。

山口氏：備蓄品の状況は。

学 校：全学生分の備蓄がある。

山口氏：炊き出し、備蓄品を試すなど、防災意識を高めることに繋がるため行っている。

学 校：消費期限が間近となった備蓄品を教職員のみではあるが、試食を行った。

(7) 学生の受け入れ募集について

3：学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。

→高校に対し、卒業生の当校卒業後の動向を伝えるという点でより努力が必要。【評価 4→4】

5：経費内容に対応した妥当な学納金であるか。

→適正な学納金である。ただし、消費税増税等による運営費用の検証は必要。【評価 4→4】

学校関係者からの質問・意見

特になし

(8) 財務について

5：私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。【評価 4→3】

→2018年度より公開する計算書を新しいフォームに変更し、資金収支計算書及び貸借対照表に加え、事業活動収支計算書を公表する。

学校関係者からの質問・意見

特になし

(9) 法令等の遵守について

1：法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているのか。

→昨年度の反省を踏まえ、今年度は法令順守の上、適切な手続きを行っている。

教職員で共有も行っている。【評価 2→4】

2：学校が所有する個人情報保護に関する対策がとられているか。

→閲覧制限を設けた上で、教職員・非常勤講師に対しても個人情報の取扱について注意喚起を行っている。

プライバシーポリシーの見直しを行い公表する。【評価 3→3】

3：自己評価の実施体制を整備し、問題点の改善を行っているか。

→実施体制について18年度よりプロジェクトを立ち上げ、組織的に評価を行っている。前年度点検における問題点の改善については、検討段階のものが多く改善には至っていないが、今後学校運営に活かしていく

プロセスを短期、中長期で方策を検討実行する。【評価 3→2】

4：自己評価結果を公表しているか。

→公表している。ただし、方法については閲覧者視点に立った公開方法を検討したい。【評価 4→4】

学校関係者からの質問・意見

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献について

2：地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか。

→昼夜間二部制のため終日施設を利用していること、休日も説明会、検定等で行っているため物理的に実施が困難で現状では今後も受託することは難しい。外部に対しての会場貸しは行っている。【評価：2→2】

3：学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。

→学生組織SAMを中心にボランティア活動を主導していたが、17年度の活動主体が交流活動であったため昨年と比較すると少なかった。継続してペットボトルキャップの回収は行っている。学校として、ボランティアを奨励すべく、掲示板等を利用して周知を進める。【評価：3→2】

学校関係者からの質問・意見

原田氏：ボランティアは自発的に行うもの。奨励のためであれば喜んで情報提供する。
学 校：ぜひお願いしたい。

(11) 国際交流について

- 1：留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行っているか。
→「国際部」として独立事業部となった。重点方針を定め、教育内容・就職等の拡充を行っている。
入学定員に対して希望者が増加しているため、定員を増やすことを検討する。【評価：4→4】
- 2：留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。
→17年度も適正校として認定を受けている。【評価：4→4】
- 3：留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。
→各年教育課程の見直しを行い、国家試験にも対応できる授業内容となっている。生活指導に対しては、日本の風習に合ったものとなるよう随時指導を行っている。【評価：4→4】

学校関係者からの質問・意見

特になし

(12) 職業実践専門課程について

- 7：教職員に対し、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修を計画的に行っているか。
- 8：教職員に対し、授業及び生徒に対する指導力等を修得・向上するための研修を計画的に行っているか。
→現場・業界見学を主としているため、より実用的で効果のある研修に教務の教職員が参加する。
またスケジュールの調整ができるよう業務分担等を行い参加しやすい環境を作る。
【7：評価昨年項目なし→2、8：評価：昨年項目なし→2】
- 13：ホームページにおいて学校運営、教育活動等に関する情報提供内容は適切か。
→ガイドライン項目はすべて情報提供しているが、提供する方法等より効果的で見やすいものとする。
【評価：昨年項目なし→4】

学校関係者からの質問・意見

7・8：企業と連携した教員に対する研修

小亀氏：研修については、具体的にどのようなところがあれば評点はあがるのか。具体的に例示していただくとわかりやすい。
学 校：業界の流れや、社会のニーズは変わるものだが、教える側もそういった最新動向を知る必要がある。
マタニティなど、新しいウェディングスタイルや訪日外国人への対応の研修が挙げられる。
船曳氏：学生は実習を行っていると思うが、先生方も一緒に参加するのも一手だと思う。
(特にブライダル業界は有益)

(13) 観光・ブライダル分野における教育の質保証、特徴化に向けた取組

- 15：学生アンケートや授業アンケート等を実施し、意見や結果を学生指導や授業改善に反映しているか。
→アンケート結果を利用し、改善に向けた取組は随時行っているが、すべてに対処出来てはいない。
各種アンケート内容の精査、結果の活用方法等より具体的に検討する。また授業見学については計画的に実施したい。【評価：昨年項目なし→3】

学校関係者からの質問・意見

特になし

各委員より一言頂戴し、進行原田氏が委員会を閉会した。

以上